

# 公益財団法人南砺幸せ未来基金

## 令和2年度 事業報告書

### I 概要と主な成果

令和2年度は、法人設立の3ヵ年目にあたり、令和元年度より引き続き、豊かで特色ある「地域資源」を活かして地域課題の解決を目指す、多様な主体及びその取組みを市民自らが支える仕組みを構築すること、循環共生型の社会づくりに貢献するため「未来資本」を創出することを目指し活動に取り組んだ。

特に、令和2年度は、以下の4点を重点事業と位置づけ、取組みを進めた。

#### 1. 基金の普及啓発と運用資金の調達

安定した基金運営を行うために、基金の設立趣旨や運用目的などを広く普及啓発を行うことで市民の理解度を高め、運用資金となる寄付金の調達につなげるために次の活動を実施した。

##### 【普及啓発】

- ・4月及び11月、当基金の設立準備会より寄付集めに尽力いただいた方に今後の事業展望について訪問。
- ・地域づくり協議会連合会の定例会や意見交換会で当財団の取組みを紹介。
- ・富山国際大学の「地域づくり実習」で学生を受け入れ基金の取組を紹介。
- ・「なんと未来創造塾」に基金の取組紹介資料を提供。
- ・会報（ニュースレターvol.00）の発行
- ・ホームページ、フェイスブックによる情報発信
- ・マスコミ各社に対するプレスリリースの発信

##### 【運用資金の調達】

・寄付金の呼びかけを行い、一般寄付（使途の定めのない寄附金）が29件 3,015,000円、指定寄付（事業指定寄付プログラム対象寄付）が22件 548,000円の実績。

なお、閑乗寺公園キャンプ場の薪の販売益の一部を寄付いただいている。（当財団の業務執行理事でもある楠則夫氏より）今後の寄付付き商品の展開において大きなヒントになる事例であった。

#### 2. 基金運営のノウハウの蓄積

##### 【会議運営】

運営体制の基盤強化を図るために財団内で協議を行った。年度内に44回の事務局会議、10回の業務執行理事会を実施している。

12月には一般社団法人全国コミュニティ財団協会に加入。これにより全国のコミュニティ財団との交流が可能となり、12月17日には全国コミュニティ財団協会中部北陸ブロック会議、1月12日には全国コミュニティ財団協会の総会にもオンラインで参加している。

#### 【所管庁の立入検査】

12月16日には、所管庁である富山県地域振興課の立ち入り検査を受けており、事業計画書等の提出日の遵守、役員の変更登記は2週間以内に行うことの指摘を受けている。今後適正な財産運営に努めていく。

#### 【まちづくり事業の情報収集】

案件発掘のためにまちづくり事業の情報収集に積極的に取り組んだ。後述する休眠預金活用助成に関したものが主であるが、49回情報収集に取り組んでいる。

9月19日には認知症支援の取組に関する事業相談会、9月29日には引きこもり支援の取組に関する事業相談会を実施。10月28日には認知症フレンドリー社会を井波地域に構築する事業準備会、11月16日には引きこもり・精神障害者の支援を南砺市に構築する事業準備会を実施している。

#### 【電子地域通貨の調査・研究 土徳コインプロジェクト】

地域内資金循環の手法である「電子地域通貨」の調査・研究を南砺市の受託事業として実施した。キックオフミーティングを7月31日に実施。(参加35名)講師に飛騨信用組合の古里圭史常勤理事を招き基調講演「さるぼぼコインで目指す地域経済循環促進」を実施した。年度内に4回の研究会、11月7日には高山市の視察を実施し「さるぼぼコイン」を実際に使い使用感を確かめた。令和3年度は令和2年度に明らかとなった課題の解決に取り組む必要がある。(市民ニーズの把握、持続可能な実装モデル)

### 3. 事務局体制の整備と充実

#### 【事務局体制】

臨時職員1名、事務局員1名の体制で事務局を構成した。

助成事業が本格的に開始(春・秋2回の頑張る人・地域応援事業、コロナ禍緊急支援、事業指定寄付プログラム、休眠預金等活用助成)の中、堅調な財団運営が図れた。

しかしながら、休眠預金等活用助成の資金分配団体に採択されたこともあり、想定していたより業務量が増加している。さらには休眠預金等活用助成の研修プログラムから「成果達成型の助成プログラム」や伴走支援の重要性の気づきがあり、これを展開していくためには人的・資金的な資源の不足を実感している。

臨時職員 1 名は退職したものの、当財団担当の地域おこし協力隊が令和 3 年 4 月 1 日より着任したことで一定の成果は期待できるが、更なる充実を図るべく事務局体制の整備を進めていく。

3 月 29 日には当財団の南代表理事が南砺市役所と中間支援組織の在り方に関する意見交換を行っている。行政でも民間でもない「中間支援組織」として存在感を示していく必要がある。

#### 【なんと未来支援センターとの連携】

なんと未来支援センターとは情報共有は行っているものの、当初描いていた案件組成（なんと未来支援センターに相談 ⇒ 当財団につなぐ）の形はまだ構築されていない。

今後、地域の困りごと解決やソーシャル・コミュニティビジネスの展開が重要となってくるため案件組成の形の構築は課題である。

#### 4. 基金活用事業の募集と支援の研究

令和 2 年度は当財団が本格的に助成事業を開始した年となった。地域資源を活用した取組みを応援する事業（頑張る人・地域応援事業）やコロナ禍の支援（コロナ禍緊急支援）、特定の事業に関する助成プログラム（事業指定寄付プログラム）及び休眠預金等活用助成事業を実施した。

#### 【頑張る人・地域応援事業】

地域資源を活かした取組であり、当財団が掲げる 7 つにテーマに即した事業を募集するもの。第 1 回目は公募期間 3 月 1 日～4 月 30 日、第 2 回目は公募期間 10 月 1 日～10 月 30 日で実施した。助成金は 1 団体等あたり 30 万円を上限とし、助成期間は 1 年を基本とし最長 3 年までとしている。応募の詳細は以下のとおり。

##### ○第 1 回

- ・応募数 9 団体（うち 1 団体取り下げ）
- ・採択数 3 団体
- ・採択団体・事業概要

団体名	事業概要	助成額
① なんとのね	安心・安全で美味しい農産物の PR とブランド化 生産力・栽培技術の向上と持続可能な農業の普及	300,000 円
② テラまちコネク ト	オリジナルお念珠づくり「ジュ・ジュエリー」づくり 瑞泉寺と井波のまちの歴史を学べる絵本づくり	297,380 円

③ ふくみつつ (*3年間事業)	ほっこり塾の実施、なんと形シェアハウスの構築	300,000円
合計助成額		897,380円

- ・審査選考委員会 令和2年5月14日(木)13:30～  
アスモ2F大会議室
- ・審査選考委員 松本久介(理事・業務執行理事)\*委員長  
川森純一(理事・業務執行理事)  
能登貴史(理事・業務執行理事)  
島田優平(理事・業務執行理事)  
宮本仁志(外部委員 北陸銀行福光支店長)

選考委員会は申請者のプレゼン5分、質疑5分の形式で行ったが、時間の不足が指摘され、第2回目ではプレゼン10分、質疑10分に改めている。

#### ○第2回

- ・応募数 4団体(うち1団体取り下げ)
- ・採択数 3団体
- ・採択団体・事業概要

団体名	事業概要	助成額
① にほんご広場なんと	外国人コミュニティにコロナ禍における正しい情報の定期的な提供とその対策の徹底	180,000円
② 大鋸屋地域づくり協議会	冬期間の除雪困難な要支援者の特定と除雪の実施	300,000円
③ まなざしなんと	子どもと子育て世代への情報発信	300,000円
合計助成額		780,000円

- ・審査選考委員会 令和2年5月14日(木)13:30～  
アスモ2F大会議室
- ・審査選考委員 楠 則夫(理事・業務執行理事)\*委員長  
川森純一(理事・業務執行理事)  
能登貴史(理事・業務執行理事)  
宮本仁志(外部委員 北陸銀行福光支店長)  
齊藤優華(外部委員 寺子こども園代表)

第1回目は審査選考をクローズドで実施したが、第2回目は他の申請者の発表を傍聴できる形式とした。申請取り下げした団体は傍聴可能の方式に嫌悪を示しており、適正な審査選考について考慮する必要がある。

1回目の採択団体は9月に、2回目の採択団体には3月にヒアリングを実施しており、事業の進捗確認を行った。

### 【コロナ禍緊急支援】

新型コロナの影響から日常生活に支障の出ている市民への必要な支援活動を行う地域や町内会、各種団体、事業者等に対して、その活動に必要な経費を支援した。

このプログラムは有志から 100 万円の寄付が集まり可能となった。

支援の上限は 5 万円。活動期間は 1 ヶ月（令和 2 年 5 月）とした。また緊急性を重視し申込のみにより助成の有無を決定している。

#### ・支援メニュー

##### ① 高齢者への支援（買物支援）

高齢者の買物支援に取り組む地域づくり協議会などを支援

##### ② 子どもに対する支援（子ども向け配食サービス支援）

食事をとるのが困難な児童生徒の家庭に子ども向けの配食サービスを行う団体等を支援する

##### ③ 飲食店への支援（テイクアウトメニューへの支援）

テイクアウトメニューを開始した店舗の配達に係る費用を支援する

#### ・実施団体、概要

団体名	事業概要	支援額
口福食彩 花華	飲食店テイクアウト	45,931 円
かようまいけ館	高齢者への配食サービス	50,000 円
サロンひまわりの会	福祉施設への千羽鶴贈呈	17,882 円
大鋸屋地域づくり協議会	高齢者への買い物支援	50,000 円
合計支援額		163,813 円

### 【事業指定寄付プログラム】

南砺市内の課題の解決に真摯に取り組む市民活動を支える社会をつくるために、広く寄付を募り、寄付文化を創り出すことを目的とし開始した。

このプログラムは当財団を言えば貯金箱として使い寄付を集めるもの。寄付者は税制優遇措置を受けることができる。当財団は集まった寄付額の 5%を運営費として受け取る。採択は業務執行理事会で審議し決定した。令和 2 年度には 2 件の応募があり、2 件とも採択とした。

#### ・採択された事業

##### No.1 子どもの権利条約フォーラム 2020in 南砺

申請者 子どもの権利条約フォーラム 2020in 南砺実行委員会

申請日 令和 2 年 9 月 2 日

採択日 令和 2 年 9 月 4 日の業務執行理事会（全会一致）

目標額 500,000 円 達成額 105,000 円 当財団運営費 5,200 円

## No.2 捨てられた命を救おうプロジェクト

申請者 にゃんと・ボランティアネットワーク

申請日 令和2年9月28日

採択日 令和2年10月2日の業務執行理事会

目標額 1,000,000円 達成額 443,000円 当財団運営費 22,100円

いずれも目標額には届かなかったが、一定の効果を上げられたと感じている。  
ただし現状の制度だと申請者の負担ばかりが目立ってしまうため、プログラムの見直しが必要である。

### 【休眠預金等活用助成事業】

#### ○休眠預金等活用とは

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成28年法律第101号）」に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度

#### ○資金分配団体として採択

当財団、公益財団法人東近江三方よし基金（滋賀県東近江市 理事長 内藤正明）、公益財団法人うんなんコミュニティ財団（島根県雲南市 代表理事 郷原剛志）がコンソーシアムを組み設立した「東近江・雲南・南砺ローカルコミュニティファンド連合」は休眠預金を活用して一般財団法人日本民間公益活動連携機構（所在地 東京都千代田区、略称 JANPIA）が実施する、草の根活動支援事業（全国）の資金分配団体として採択された。

“複雑化・複合化した孤立の解消は、地域の様々な関係者が総働で挑むことが不可欠であり、人的資源も含めた地域資源を把握して個別にアウトリーチ・支援できる市域レベルの中間支援組織だからこそ実施できる”と志を同じくした三法人が連合を組んだもの。

募集のメインテーマは

「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」

サブテーマが

「日本の変革をローカルアクションの共創から実現する」とし、

対象事業を

- ① 経済的・物理的距離により学ぶ機会を失った子ども・若者へ学習の場や心のケアを提供する活動
- ② ひきこもり、障害、認知症等の疾患、在住外国人へのアウトリーチを地域参加に

つなげ、地域で働き・暮らせる支援活動

- ③ 産前産後の母親、ひとり親へ個別訪問や集いの場づくり
  - ④ 若者・移住者に地域産業の就労、地域資源を活用した起業などの働きと、居場所があり地域とつながり暮らせるような支援活動を実施する団体の伴走支援と広報
- とした。

#### ○実行団体の決定

実行団体の公募を12月21日から1月24日まで行い、6団体の応募があった。

2月11日に審査会を実施し、4団体を選考。2月26日の理事会にて内定を決定した。採択団体は事業計画、資金計画、評価計画のブラッシュアップを実施した上で令和3年4月に当財団と資金提供契約を締結した。

- ・審査会 令和3年2月11日（木）13：30～  
アスモ2F大会議室
- ・選考委員 山城清二（富山大学付属病院総合診療部教授）\*委員長  
小柴徳明（社会福祉法人黒部市社会福祉協議会）  
西尾貴知（富山銀行）  
浦井啓子（株人づくり・学び舎代表）  
川森純一（南砺市総合政策部長）

#### ・採択団体

申請者名	事業名	契約助成額
社会福祉法人マーシ園	引きこもりや精神障害があり孤立状態の人に社会参加の環境を創る	8,400,000円
なんとおせっ会移住応援団	空き家対策・移住・定住促進事業	6,767,000円
株式会社ガラパゴス	桜ヶ池キャンプ場	8,080,000円
テラまちコネクト	お寺初！おかあさん目線の雇用創出事業	6,796,500円
助成金合計		30,043,500円

\*助成期間（～2023年2月末まで）の合計

\*契約助成額に評価関連経費も含む

#### ○プログラムオフィサー

休眠預金等活用助成にはプログラムオフィサーが伴走支援を行う。

当財団のプログラムオフィサーは南眞司、能登貴史であり、事業終了まで伴走支援を実施する。

## II 運営に関する実績

### 1 寄付金の状況

一般寄付金 29件 3,015,000円

指定寄付金 22件 548,000円

### 2 会議状況

#### (1) 業務執行理事会

会議名	日時	内容
第1回業務執行理事会	4月27日	頑張る人・地域応援事業選考委員会について 役員の改選について 寄付集めの戦略について 理事会、評議員会の開催について 休眠預金助成事業の応募について コロナ緊急支援策について
第2回業務執行理事会	5月25日	理事会の議事について 理事会の報告事項について 寄付集め戦略について
第3回業務執行理事会	6月26日	休眠預金活用の応募について 南砺土徳コインプロジェクトについて 会報の発行について
第4回業務執行理事会	7月31日	休眠預金活用の応募について（報告） 事業指定寄付プログラムについて 災害支援金について 土徳コインプロジェクトについて
第5回業務執行理事会	9月4日	下半期のスケジュールについて 休眠預金活用の進捗について 頑張る人・地域応援事業の募集要項について 事業指定寄付プログラムの採択について 土徳コインプロジェクトについて
第6回業務執行理事会	10月2日	事業指定寄付プログラムの採択について 休眠預金活用の進捗について 土徳コインプロジェクトについて
第7回業務執行理事会	11月6日	休眠預金活用の進捗について 頑張る人・地域応援事業の選考委員会について 土徳コインプロジェクトについて 日本ファンドレイジング協会への入会について
第8回業務執行理事会	12月18日	休眠預金活用の進捗について



		土徳コインプロジェクトについて
第9回業務執行理事会 (コロナの影響を考慮し、中止)	1月22日	休眠預金活用の進捗について 土徳コインプロジェクトについて
第10回業務執行理事会	2月26日	休眠預金等活用制度に基づく助成事業の承認について 令和3年度事業計画(案)について 令和3年度収支予算(案)について 土徳コインプロジェクトについて
第11回業務執行理事会	3月19日	令和3年度事業計画の詳細について

## (2) 理事会

会議名	日時	内容
第1回理事会	5月25日	令和元年度事業報告 令和元年度貸借対照表及び正味財産増減計算書 役員の変更について 評議員会の開催及び目的事項の決定について 令和2年度第1回南砺幸せ未来基金頑張る人・地域応援事業の結果について
第2回理事会	6月26日	代表理事の選定について 業務執行理事の選定について
第3回理事会	10月2日	規程類の承認について
第4回理事会 (ZOOM開催)	12月9日	JANPIAとの資金提供契約の締結について 令和2年度事業計画と収支予算の変更について 令和2年度第2回南砺幸せ未来基金頑張る人・地域応援事業の結果について
第5回理事会	2月26日	休眠預金等活用助成事業の実行団体採択の承認について 令和3年度事業計画(案)の承認について 令和3年度収支予算(案)の承認について

## (3) 評議員会

会議名	日時	内容
第1回評議員会 (書面決議)	6月15日	令和元年度事業報告 令和元年度貸借対照表及び正味財産増減計算書

		役員の改選について 補欠評議員の選任について
--	--	---------------------------

(4) 監査の実施

令和2年5月22日、監事（2名）が令和元年度の監査を実施し、監査報告書を作成した。

(参考記載)

事務局会議（\*定款に定めはないが、業務執行理事会の議題の整理・調整のため実施したもの）年度内に44回の事務局会議を実施した。

3 寄付者の名簿作成

令和元年度に引き続き、寄付者の名簿を整備した。

4 受託事業

南砺市より資金循環に資する取組みを進める目的の業務委託を受託している。

○地域内資金循環推進事業業務委託

契約額 760,100円

期 間 令和2年7月1日～令和3年3月31日

内 容 地域内資金循環をテーマとしたセミナー開催  
電子地域通貨の研究

5 他機関等の連携

特に、以下の団体と連携し事業を実施した。

連携団体

- ・南砺市  
事業の受託、事務局業務
- ・(一社) なんと未来支援センター  
地域課題解決に向けた情報共有、連携
- ・公益財団法人東近江三方よし基金、
- ・公益財団法人うんなんコミュニティ財団  
休眠預金事業の資金分配団体としてコンソーシアムを構成
- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)  
休眠預金事業の指定活用団体